

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第1区分

【発行日】平成27年12月3日(2015.12.3)

【公開番号】特開2014-85232(P2014-85232A)

【公開日】平成26年5月12日(2014.5.12)

【年通号数】公開・登録公報2014-024

【出願番号】特願2012-234483(P2012-234483)

【国際特許分類】

G 0 1 P	15/10	(2006.01)
H 0 1 L	41/18	(2006.01)
H 0 1 L	41/187	(2006.01)
H 0 1 L	41/08	(2006.01)
H 0 1 L	41/09	(2006.01)

【F I】

G 0 1 P	15/10	
H 0 1 L	41/18	1 0 1 A
H 0 1 L	41/18	1 0 1 B
H 0 1 L	41/18	1 0 1 D
H 0 1 L	41/08	Z
H 0 1 L	41/08	C

【手続補正書】

【提出日】平成27年10月19日(2015.10.19)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

振動駆動される物理量検出素子を有する物理量検出部と、

固定部を有し、前記物理量検出部と接続している支持部と、を備え、

前記支持部は、前記物理量検出部の厚み方向からの平面視において、前記物理量検出部側の幅より前記固定部側の幅が狭い幅狭部と、前記幅狭部と前記固定部との間に位置し、且つ前記平面視において前記幅狭部の前記固定部側の幅よりも幅が広い幅広部とを有していることを特徴とする物理量検出デバイス。

【請求項2】

前記幅狭部は、前記平面視において前記物理量検出部側から前記固定部側に向かって単調に幅が狭くなっていることを特徴とする請求項1に記載の物理量検出デバイス。

【請求項3】

前記固定部は、前記平面視において前記幅広部の幅よりも幅が狭いことを特徴とする請求項1に記載の物理量検出デバイス。

【請求項4】

前記固定部は、前記平面視において前記幅広部の幅よりも幅が広い部分を有することを特徴とする請求項1に記載の物理量検出デバイス。

【請求項5】

前記固定部は前記支持部の先端部に配置されていることを特徴とする請求項1乃至4の何れか一項に記載の物理量検出デバイス。

【請求項6】

前記物理量検出部は、基部および前記基部から延在して設けられている可動部を有し、
前記物理量検出素子は、前記基部と前記可動部とに接続され、

前記支持部は、前記基部から延在して設けられていることを特徴とする請求項1乃至5
の何れか一項に記載の物理量検出デバイス。

【請求項7】

前記基部から複数の前記支持部が延在して設けられていることを特徴とする請求項1乃至6
の何れか一項に記載の物理量検出デバイス。

【請求項8】

請求項1乃至7のいずれか一項記載の物理量検出デバイスと、

前記物理量検出デバイスの前記固定部が接合材を介して接続されるパッケージと、
を備えていることを特徴とする物理量検出器。

【請求項9】

前記物理量検出素子から出力される信号の処理を行う電子回路を備えていることを特徴
とする請求項8に記載の物理量検出器。

【請求項10】

請求項8または9に記載の物理量検出器が搭載されていることを特徴とする電子機器。

【請求項11】

請求項8または9に記載の物理量検出器が搭載されていることを特徴とする移動体。